

少子化と亥年

今年が亥年。実は、私は、昭和 22 年生まれの亥年、年男であります。

昭和 22 年と言いますと、いわゆる団塊の世代の最初の年代です。昭和 22 年から 24 年の間には、生まれた子供の数は毎年 260 万人を超え、出生率は 4 を超えていました。普通の家族が平均子供 4 人を持っていたわけですね。そんな時代に生まれた団塊の世代は、小さい時から兄弟同士で食べ物やおもちゃを奪い合ったり、また、受験戦争、就職戦争と、競争社会を生き抜いてきました。そのエネルギーが、この経済大国を築いてきたのかもしれない。

ところが、昨年末、厚生労働省が発表した将来人口推計によりますと、平成 17 年の出生率は 1.26 まで下がってしまったそうです。今、日本は人口減少時代を迎えました。50 年後には、日本の人口は 9000 万人を切り、65 歳以上高齢者は 4 割に達し、一方、働く世代は、現在の 6000 万人から 4000 万人に減少すると見込まれています。4000 万人の現役が 3600 万人の高齢者を支えなければならない、ということですから、これから先、日本は大丈夫かという議論が起こるのも当然です。

しかし、ご安心下さい。今年が亥年です。実は、亥、つまり猪は大変な多産系の動物なのだそうです。ですから日本には、昔から、猪は子孫繁栄の縁起のいい動物とされてきたそうです。地方によっては、旧暦の 10 月の亥の日から“こたつ”を開く習慣があったそうですが、西日本では、この日は亥の多産にあやかって収穫祭が行われ、この日に田の神が帰っていかれると信じられていました。また、「亥の子の祝い」といって、この日の“亥の刻”に“亥の子”もちを食べると万病を除くとか、子孫繁栄の願いが叶うそうです。

また、名古屋市の大石神社というお宮には、猪子石という、猪が寝ているような姿の大きな石があるそうです。その石には小さな石が付着していて、まるで子供がいるようなので「子持ち石」、「牝石」とも言われるそうです。

そして、この猪子石には、こんないわれがあるそうです。大昔、ある村があって、その村の女性のお産は、どういうわけかみんな難産だった、そこである一人の女性がこの石のように猪の多産にあやかろうとおまいりをしたそうです。すると、その女性は無事に丈夫な赤ちゃんを産むことができた。それからはみんながこの石ところにやってきて安産を祈願するようになり、この石は安産の守り神として敬われるようになった、というお話です。今でも、大石神社に、猪子石「牝石」は大事に祭られているそうです。

そこで、この亥年、多くの女性が子供生んで下さると、私は大いに期待しているわけであります。などと、政治家が言っているはいけませんかね。ご信頼下さい。政府は、真剣に少子化対策に取り組んでいます。今年の通常国会は 1 月 25 日に開会され、来年度予算案の審議が始まっていますが、その来年度予算案で、少子化対策費として、厚労省だけでも 1 兆 4863 万円が計上されています。

追伸 大石神社の猪子石「牝石」とは別に、猪子石神社に“猪子石「牝石」が祭られているそうです。で、この石に触ると、”たたり“があるそうです。